

小中学校 国語科の指導におけるICTの活用

県教育庁義務教育課

ここに掲載した内容は、文部科学省 HP「各教科の指導における ICT の効果的な活用に関する参考資料」から抜粋したものです。詳しくは、下記文部科学省 HP をご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/mext_00915.html

中学校

書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる

ここでは、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【中学校国語】(令和2年3月, 国立教育政策研究所) (以下、『参考資料』)の事例2を踏まえた授業を取り上げ、一人一台端末活用事例として紹介する。

「書くこと」の学習過程

題材の設定

情報の収集

内容の検討

構成の検討

考えの形成

記述

推敲

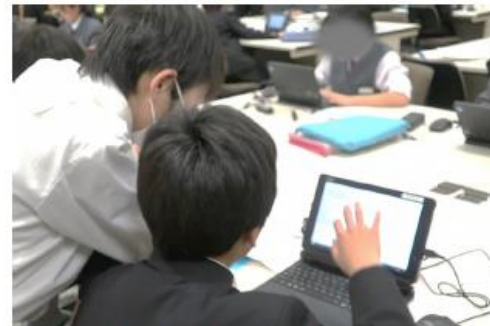
共有

単元「関心のある事柄について投書を書く」(第3学年・4時間)

- 関心のある事柄から新聞に投書する題材を決め、自分の意見と根拠を整理する。
- 文章作成ソフトで下書きを入力する。
- グループで下書きを読み合い、分かりにくい部分等についてコメント機能を用いて確認し合う。
- 投書にふさわしい表現について考える。
- 読み手の立場に立って自分の下書きを読み、目的や意図に応じた表現になっているかを確認する。
- 文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲する。
- 希望者は、清書したデータを投稿する。

中学校 第3学年「書くこと」

エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確認し、文章全体を整えること。



↑ コメントを踏まえて修正した表現について、友達と確認する生徒

(単元終了時) コメントや校閲機能による修正の跡が残っているデータを教師に提出。

- 文章作成ソフトで文章を書くことで、コメント機能等を用いて助言し合うことができる。
- 文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲することで修正の履歴を残すことができる。教師による評価の信頼性や妥当性の向上にも資する。

(1) コメント機能の使用例

【生徒Pがコメントを書き込んだ下書きの例】

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。

先日、いつも通る信号のない横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって走ってきた。私は、車が通り過ぎるのを待とうと思い、立ち止まった。すると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が会釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔で返してくれた。

一生道を譲り続けても合計は百歩にもならないという言葉も聞いたことがある。私は、笑顔で道を譲ってもらったとき、心が温まった。ちょっとした譲り合いが、私たちの心を温めてくれる。譲り合う気持ちを大切にしてみませんか。

【コメント機能の具体的な使用例】

コメント【P1】: いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまってもいい。最初は自分が経験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

下書きを読み直し、自分(生徒P)が気付いた点を入力する。

コメント【P2】: 誰の言葉?(山田)

コメント【P3】: 誰から?(佐藤)

下書きを交流し、生徒Pの文章について友達が気付いた点等を入力する。

コメント【P4】: 誰から教えてもらったかが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めた。

入力してくれた友達のコメントを読んで、更に気付いた点等を自分(生徒P)で入力する。

- 気付いた点を入力する際は、文章全体をどのように整えたいかを「～が分からない(伝わってこない)。だから～したい(する)」等のように入力することを指導する。
- 友達の文章にコメントする際は、記名をさせる。コメントの意図を尋ねたり、よりよい表現を互いに助言し合ったりする際に有効である。また、教師が生徒の学習の状況を適切に把握する際にも役立つ。

←投稿の準備を進める生徒

(2) 校閲機能の使用例

【生徒Pがコメントを書き込んだ下書きの例】

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。

① 先日、下校時にうれしいことがあった。横断歩道に近づくと、車がこちらに向かって走ってきた。私は、車が通り過ぎるのを待とうと思い、立ち止まった。すると、その車はゆっくりと止まってくれたのだ。私が会釈をして渡ろうとすると、車を運転していた人は笑顔で返してくれた。

テレビで、自動車の危険な運転のニュースが連日のように流れている。それは、心のゆとりのなさによって起きてしまうのではないだろうか。

一生道を譲り続けても合計は百歩にもならないという言葉も聞いたことがある。私は、笑顔で道を譲ってもらったとき、心が温まった。ちょっとした譲り合いが、私たちの心を温めてくれる。譲り合う気持ちを大切にしてみませんか。

自分のコメント【P1】を踏まえ、削除。

自分のコメント【P1】を踏まえ、追加。

下書きを検討後、校閲機能を用いて推敲、文章を修正する。

コメント【P1】: いきなり自分の考えが書いてあるので、この考えに賛成しない人は、読むのをやめてしまってもいい。最初は自分が経験した出来事から書き始め、物語のように話を進めることで、分かりやすく自分の考えを伝えられるようにしたい。

コメント【P2】: 誰の言葉?(山田)

コメント【P3】: 誰から?(佐藤)

コメント【P4】: 誰から教えてもらったかが分からないので、学校の先生から教えてもらったと書く。先生に確認して、正確に紹介することで説得力を高めた。

- コメントに書かれた内容を踏まえ、自分の文章を改めて読み直し、自分の考えがよりよく伝わる文章になるよう適切に修正するよう指導することが大切である。
- コメントに書かれた指摘について、その適否を吟味し、適切に反映させることも併せて指導することも必要である(コメントに書かれた指摘が必ずしも妥当であるとは限らない)。
- 教師も一緒にコメントに参加したり、回収後、フィードバックにコメント機能を活用したりすることも考えられる。

- 学習過程に即した各時間に書いた文章(学習の状況)を保存させておくことで、教師は、生徒一人一人について、学習の状況を時系列で確認することが容易になる。
- 自分が書いた文章を各自の端末に保存(長期的に蓄積)していくことで、生徒は、例えば、「今まで書いてきた意見文では、どのような点に課題が見えたか」「今回の意見文では、どこに注意して書くべきか」という点について、長いスパンで学習を振り返ったり、当該単元について具体的な見通しをもったりすることができる。

小学校

小学校 第5学年及び第6学年「A話すこと・聞くこと」

ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

話すこと・聞くこと

〈活用の場面〉

○提案の練習をお互いに見たり聞いたりする活動を通して、提案する物の魅力が相手に伝わるように表現の工夫を考える。

〈ICT活用例〉

- タブレット型端末等を使って、班員同士で提案の練習の様子を撮影し合い、その動画を実際に見ながら、互いの提案の中での実物の提示や実演の仕方の良さや課題等を伝え合う。
 - 動画を使って、各個人で振り返ったり、教師が全体指導の材料として活用したりする。
- ※単元の導入として、関連する以前の単元(前学年までのものを含む。)での自身の動画を見ながら振り返り、表現の工夫を考えることも考えられる。



自分たちで作ったおもちゃの魅力が伝わるよう、実物を使って提案する練習の様子

小学校 第5学年及び第6学年「B書くこと」

エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

〈活用の場面〉

○身近な題材から決めたテーマを基に、読み手が納得するように引用したり、データを加えたりしながら、意見文を書く。

〈ICT活用例〉

- インターネットを活用するなどして集めた、関連する情報を用いて、意見文を書く。
- ※国語科の学習であることに鑑み、図表やグラフを作成する活動に過度に偏らないよう留意しつつ、表計算ソフトを活用して身近なデータを基にグラフをつくること等も考えられる。
- 単元の途中で、学級の中で工夫が見られる例を紹介しながら、教師が全体指導する。



インターネットを活用して関連する情報を集めている様子